

2003 年 4 月 1 日

「ゆきとどいた教育をすすめる北海道連絡会」御中

知事候補 若山俊六

公開質問状への回答をいたします

質問 1 への回答：早急に、現行 35 人学級を全道に広げます。中学校、高校にも少人数学級を導入し生徒一人ひとりにゆきとどいた教育ができるようにいたします。また、3 学級 4 定員、6 学級 8 定員の学校には特別な加配枠を設けるなど、支援をしたいと考えます。

質問 2 への回答：公立高等学校の通学区域は、教育の機会均等を進めるために欠かせません。特に広域な本道では、その役割を発揮してきました。それを広げることは、高校の統廃合につながる懸念もあり、多方面から検証することが必要です。拙速な高校通学区域の拡大議論は行うべきではないと考えます。

質問 3 への回答：生徒減少期こそ少人数学級を実施する好機と考えます。教育行政として行うべきことは教育条件整備であり、少人数学級を進めることによって、高校統廃合・学級削減もこれまでとは違う対応になります。私の公約は小中高すべての学校で 30 人学級を行うことです。

質問 4 への回答：特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの支援を充実させます。学校の状況を良く聞き、必要な人員を配置するようにします。LD、ADHD、アスペルガー症候群など、対応がこれまで不十分だった部分に対し、専門機関とも連携をはかりながら支援を具体化させます。

質問 5 への回答：私学への補助を公立学校の 1 / 2 に増やすとともに、授業料・保育料など補助を増額します。また、私学の教員専任率を向上させるよう措置を取ります。

質問 6 への回答：家計の激変を緩和させられるよう、給付型の奨学金の創設を行うなど、子どもの就学保障のための緊急措置も含めて対応をはかります。学ぶ意欲がありながら、就学・進学等ができないことがないよう具体の措置を検討し、直ちに改善します。

質問 7 への回答：小中学校においては、校舎の耐震検査を直ちに行い、危険校舎をなくします。子どもや保護者、教職員、地域のみなさんの意見を伺い、学校施設設備の改善に生かします。道立高校でも緊急を要する校舎改築を直ちに行えるよういたします。子どもたちが安心して学べる学校施設にします。